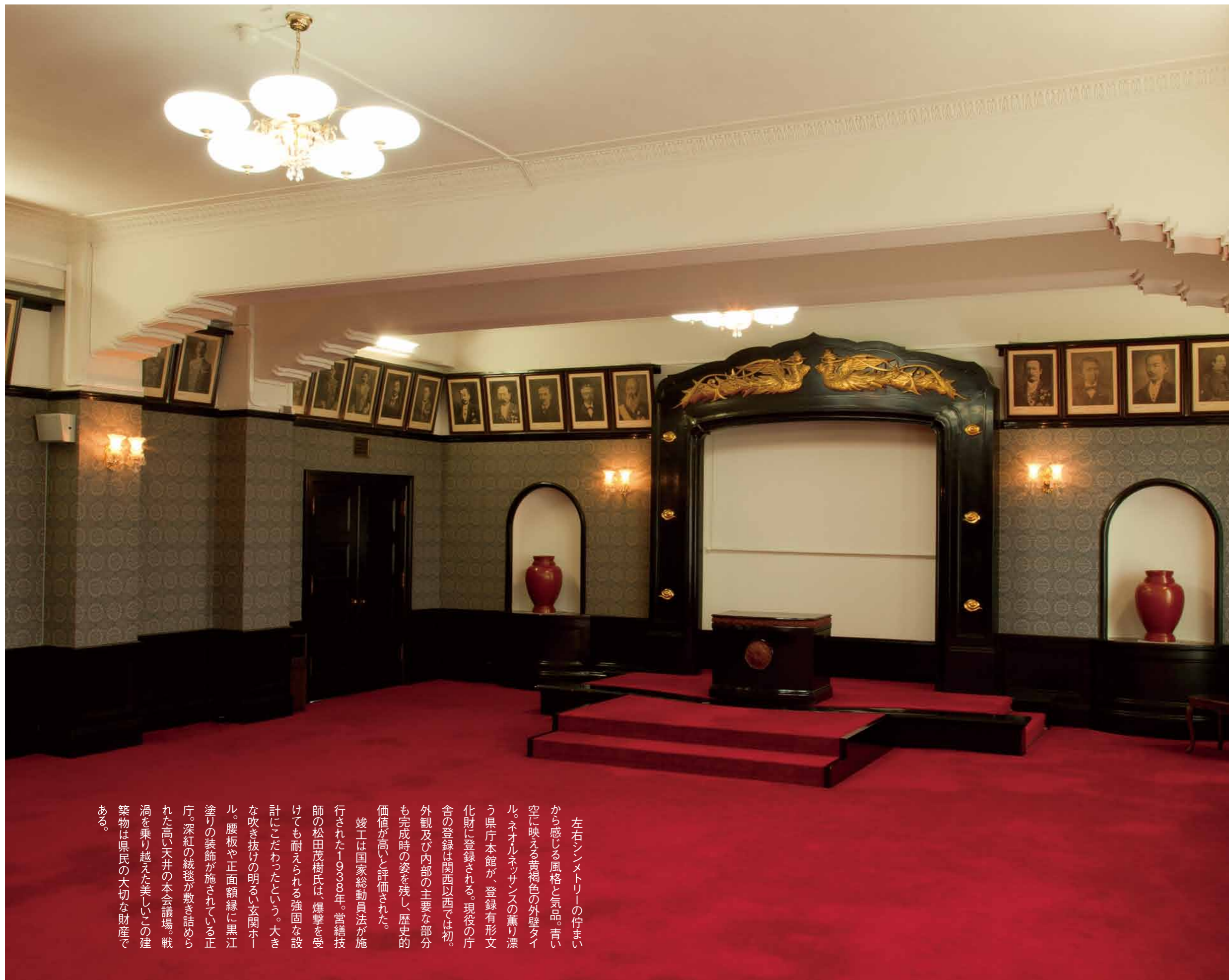


# 和歌山県庁 本館



左/本館4階に位置する正庁。漆喰塗りの天井。腰板と額縁に施されたつや消しの黒い漆は黒江塗。さらに鳳凰と雲形が金箔で描かれ、深紅の絨毯とのコントラストが麗かな空気を醸し出している。現在でも式典などで使用されている。



上/明るい外壁が青い空に映える和歌山県庁。中/県議会が開催される本会議場。下/玄関ホールから階段を上った踊り場には、保田龍門の丹生都比売の巨大なレリーフが飾られ県民を迎え入れる。

左右シンメトリーの佇まいから感じる風格と気品。青い空に映える黄褐色の外壁タイル。ネオルネッサンスの薫り漂う県庁本館が、登録有形文化財に登録される。現役の庁舎の登録は関西以西では初。外観及び内部の主要な部分も完成時の姿を残し、歴史的価値が高いと評価された。竣工は国家総動員法が施行された1938年。営繕技師の松田茂樹氏は、爆撃を受けても耐えられる強固な設計にこだわったという。大きな吹き抜けの明るい玄関ホール。腰板や正面額縁に黒江塗りの装飾が施されている正庁。深紅の絨毯が敷き詰められた高い天井の本会議場。戦渦を乗り越えた美しいこの建築物は県民の大切な財産である。